

材料・応用化学科ISO14001自己適合宣言

2004年に環境ISO14001が認証されて以来、約17年間外部機関から評価と認証を受けてきましたが、2022年1月よりこれまでの環境ISOの理念を継承しつつ、社会的要請の変化に対応した環境教育を推進するため、ここに自己適合宣言をいたします。

環境方針

熊本大学SDGs宣言および2030年SDGs達成に向けて目指す姿

私たち熊本大学は、2015年に国連が採択したSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて、学生・教職員一人ひとりが、身近な課題も世界の課題も「自分ごと」として考え、大学として“**One Team**”となって取組を推進することを宣言します。

阿蘇や天草など豊かな自然に恵まれ、時には地震や豪雨による災害といった自然の猛威と対峙してきた熊本に位置する熊本大学は、これまでも持続可能な社会の実現に向けて、取り組むべき課題と向き合い、挑戦してきました。この歩みをさらに推し進め、私たちが持つ知の力を結集・発揮して、「妥協なく描く未来」に向けた創造を行います。

熊本大学は、SDGsの達成に向けた取組を通して、身近な人々や地域・社会・世界の様々なパートナーとFace-to-Faceで対話し、価値観を共有することによって、さらに新しい価値を創造する「共創」を推進します。

環境やエネルギー問題に限らず、未来により良い世界を残すために、世界全体で取り組む国際目標がSDGsです。熊本大学は、学問分野や国境、世代を越えた多様な人材が活躍する知の集積拠点として、SDGsの実現に向けて、新しい時代を切り拓く人材を育成し、より良い未来を実現するための研究を推進することで、世界や地域社会へ貢献し続けます。「できるかできないかではなく、やるかやらないか。」私たちは、実行を通して、この困難な時代に挑みます。

(以下、熊本県SDGs登録制度に掲げた内容を抜粋)

新しい価値を創造できる人材の育成のため、学内外の教育の充実を図り、質の高い教育を提供する。また、地元自治体等との連携・協力体制を構築し、地域のニーズに応じた教育及び研究を推進することで、産業活性化の充実を図る。さらに、研究拠点大学として先端研究に磨きをかけることで17のゴール達成に貢献する。

材料・応用化学科基本方針

熊本大学SDGs宣言に基づき、工学部の化学教育を担う材料・応用化学科応用生命化学および応用物質化学教育プログラム(以下本学科とよぶ)では以下の基本方針を実施し、環境に配慮した研究および生産活動を実践することのできる化学者の育成を目的とし、以下の基本方針を定める。

- 1) 化学物質の製造・処理に深く関わりのある本学科の教育においては、専門科目の充実を図るとともに、学生実験における環境負荷の軽減を図り、環境意識の高い学生を育成する。
- 2) 毒劇物や危険物、発ガン性物質などを含めた化学物質の取扱方法を教育するとともに廃液、廃棄物の処理方法を指導し、汚染の予防に努める。
- 3) サイト外(他学科、他学部、学外)への環境保全に関する知識の普及及び啓発に努める。
- 4) 学生実験の遂行に際して、環境関連の諸法令及び本学科に対する学内外の環境に関する規則や要求事項を順守する。
- 5) この環境方針をもとに、環境目的・目標を作成し実施する。また、本方針に基づき目的・目標を定期的に見直し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図る。
- 6) この環境方針は文書化し、本学科の全教職員、学生に周知するとともに一般の人にも文書並びにインターネットのホームページを通じて開示する。

2023年4月1日

熊本大学工学部 材料・応用化学科
応用物質化学教育プログラム
応用生命化学教育プログラム
サイト長 町田 正人